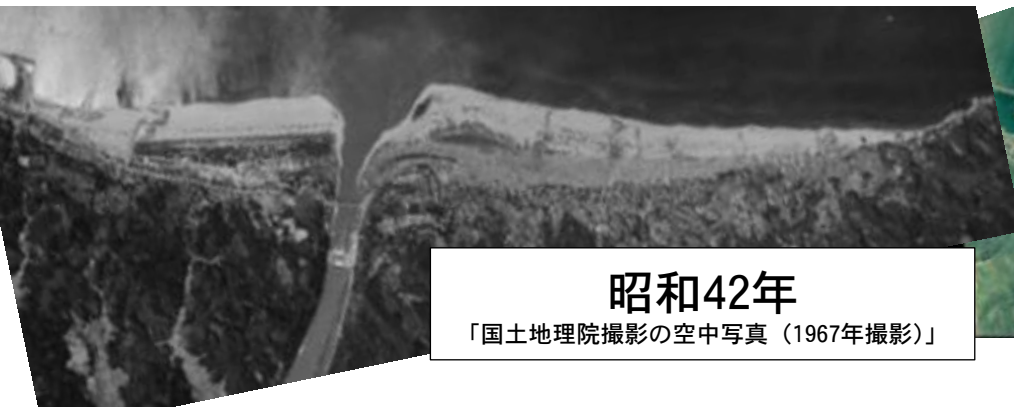


20 飛砂とのたたかいを克服した寺泊地区海岸防災林事業

新潟県（長岡市）



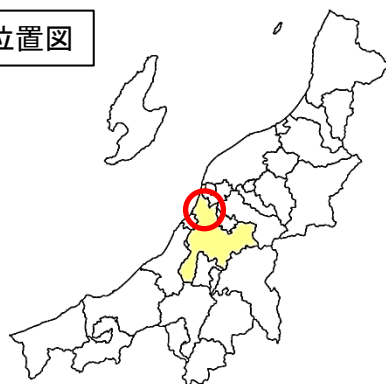
昭和42年

「国土地理院撮影の空中写真（1967年撮影）」



現在の状況

位置図



飛砂で埋まった田地の復旧状況（昭和42年頃）

○所在場所

新潟県長岡市寺泊港町 ほか

○施設・工法の概要

堆砂工・丘頂工による砂丘造成、静砂工・植栽工によるクロマツ林造成

○解説

長岡市寺泊地区の海岸は、大河津分水を挟んで左岸側は寺泊地区、右岸側は野積地区となっています。

大正11年に大河津分水の通水が開始され、大量の土砂が日本海に流出しました。その結果、汀線が500m以上伸び、新たに出現した広大な砂地から生じる凄まじい飛砂被害に地域住民は苦しめられました。

この対策として、昭和23年から砂丘の造成及びクロマツの植栽を中心に治山事業に着手し、70haに及ぶ森林造成に成功しました。

現在、この松林は地域住民になくてはならない林となっています。

全景

